

第4回北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和3年10月27日(水) 19:00~21:00
開催場所	北川村立北川小学校 多目的ホール(オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 森本委員、小笠原委員、田中委員、山崎(美)委員、田所委員、弘田委員 永野委員長、伊庭委員、倉斗委員及び中山委員(リモート参加) 計10名</li> <li>■ アドバイザー 柳川アドバイザー</li> <li>■ GPMO 湯川</li> <li>■ 事務局 野見山副村長、西岡教育次長、百々次長補佐、溝渕主幹</li> </ul>
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 開会</li> <li>(2) 前回内容の確認</li> <li>(3) 社会とつながる学びの空間や複合化に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ及びアンケート報告と方向性</li> <li>・サウンディングの実施について</li> </ul> </li> <li>(4) 就学前教育のあり方について <ul style="list-style-type: none"> <li>・北川村の教育の方向性</li> <li>・認定こども園の概要</li> </ul> </li> <li>(5) 次回の検討委員会について</li> </ul>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 第3回検討委員会議事録</li> <li>・資料2 ワorkshop・住民アンケート報告、今後の方向性</li> <li>・資料3—1 サウンディング実施要領案</li> <li>・資料3—2 サウンディング概要</li> <li>・資料4—1 北川村の教育の方向性</li> <li>・資料4—2 認定こども園の概要</li> </ul>

議事経過	<p>(1) <b>開会</b></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局挨拶</li> </ul>
議事経過	<p>(2) <b>前回内容の確認について（第3回検討委員会議事録【資料1】）</b></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料1】に基づいて説明</li> </ul> <p>【小笠原委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録の修正をお願いしたい。4月28日に開催された保小中教職員が参加されたワークショップでだされた意見と申し上げた。文中にある7月28日ではありません。また、鍵かこの箇所ですが、「ICTの活用が進んでいるからこそ、子どもたち同士の繋がりや本物に触れるという体験を大切にしてもらいたい」と発言させていただきましたので、修正をお願いしたい。それと、最後の「それは北川村の子ども同士のつながりを育む特性なのだ」と理解している」の部分は私の意図するところとは違うので、確認し修正をお願いしたい。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりました。内容を確認させていただき反映してまいりたい。</li> </ul> <p>【小笠原委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（4）の発言であるが、企業の取り組みではなく、Founding Baseの農業プロジェクトの取り組みと子育て教育ビジョンの中での関連性についてお聞きしたものです。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・承知しました。</li> </ul>
議事経過	<p>(3) <b>社会とつながる学びの空間や複合化に向けて・ワークショップ及びアンケート報告と方向性（資料2 ワークショップ・住民アンケート報告、今後の方向性）</b></p> <p>【柳川アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料2】を基に説明</li> </ul> <p>【倉斗委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を拠点にして交流することを考えたとき、交流施設があるというよりは、家庭科室とランチルームみたいな場所が放課後になるとフードラボになって村の方々も来ることができたり、田舎寿司のような郷土料理をつくる場所に子どもも来ていいよとか、また、図工室や技術室のような設備がある場所についても、ファブラボみたいに3Dプリンターなどデジタル系のものとかが置かれていることで村の方々も使えるようにするなどが考えられる。同じように、ミュージックラボとか、サイエンスラボ、スポーツラボなど学校全体が村のラボになっていくようなこともできるのではないかと考えている。大きな学校だと学校で使われる時間が多くなってしまうのでなかなか難しいが、少ない人数であればやりやすいと思っている。村の大</li> </ul>

人たちも学ぶ場所であるという考え方で特別教室を活用していくことは、PFIを検討し民間事業者に運営を任せるのであれば可能ではないかと考えている。

- ・アンケートについては、1ページ目の年齢構成は回答者の比率だと思うが、村民の年齢比率も参考値として入れてもらうとよりクリアになるのではないかと。
- ・居住エリアを聞いているのかは気になる。集落によって偏りがあるのかどうかは気になっている。
- ・問5については、どういうものが欲しいのかは確認できたが、今後整備していく施設についてはまだ誰も見た事もないものなので、ここには出てこないだろうと思っている。図書館、スポーツという活動のイメージをここから引き出しながら、新しいものを生み出していくことでもいいと思っている。

#### 【柳川 AD】

- ・特別教室の活用については、私もその可能性が非常に高いと考えている。今までの特別教室というのはありきたりの実験設備やありきたりの調理台などそういうものを入れて特別教室にしているところがあるが、これからは大きく変化していくことになるのだろうと思う。実は、子どもたちのワークショップの中で工作室の人气が高かった。これは図画工作室が小学校に無いということもあって、ものづくりをやりたい、休み時間でも作りたいといういろんな話がでていた。そういう意味でも授業の合間、昼休みなどにおじいちゃんと一緒に何か作ってみるというような場面もあっていい。また、活用を考えていくという一方で、先生方が使いたいときにしっかりと使えるということが非常に重要だと考えている。今までも、地域開放をやると思って進んで行かなかったのは、先生と地域の方が使えるタイミングがなかなかうまく調整できないということがあった。今倉斗先生がおっしゃってくださったように、PFIというものを活用して調整ができれば格段に活用が広がると考えている。

#### 【倉斗委員】

- ・学校の地域開放について、地域の人が使っているときは子ども達が使えないとか子ども達が使っているときは地域が使えないというイメージを持たれがちだが、それも空間の作り方によっては、あっちでおじいちゃんがやっているけど、こっちでは授業をやっているとかっていうようなこともあり得る。「あの人はいつも何を作っているのだろう」みたいなことから、子どもたちが自然と交流して行く環境っていうのは作っていけると思うので、そのあたりの可能性を広げていけるといいと思う。

#### 【柳川 AD】

- ・アンケート内容につきましてはまた報告書を作成する中で反映させていただきたいと思っている。

#### 【伊庭委員】

- ・教育施設でも、使っていない場合は単なる箱であるため、そういった使っていない時間は自由に使える仕組みを作ることは、これからの複合化のあり方のひとつなのだと思う。

・PFIについては、民間企業からすると収入が得られることが重要になるので制約がない方が良い。京都の御池中学校の事例を見れば、カフェレストラン、イタリアンレストラン、高齢者施設や保育園もあって乳児園も様々ある。そういった事例を踏まえれば難しくはない。

・子どもって非常に大変で忙しいだろうなって言うのがよくわかった。我々の子どもの頃は、大人のいないところに行きたくてしょうがなかった。いろんなことをやらされるという思いがあったが、今は大人の人たちが自分たちを守ってくれてなんかいいことをやってくれてるんだっていう感覚をもっている。昔は自分が子供の頃は1クラス55人教室で、自分が通っていた学校は小学校だけで1200人いた。自分のクラスの友達の中には20人ぐらいい名前も顔もわからない人がいた。今では与えられてくるものが多くなって情報量も多くなっていく中で、子どもたちがこれから本当に育っていくのに何が必要なのかいつも迷っている。ただ、我々の育った60年前とはずいぶん違う状況も確かなので、今の子どもたちのために何が出来るのか真剣に考えなければいけないと考えている。

【柳川 AD】

・この街だからこそ続けられることを続けていかないとならないというのも正直な気持ちである。新しいことを作っていくことも大事だが、それが村の文化に馴染めずに途中で終わってしまうというわけにはいかない。まだ計画段階であるが、実際にこれが建てられるということになれば、設計段階でより深く進めていかなければならない。いずれにしても、教育で先生方も悩み、地域の方もいろんなご心配をおかけしていることもあるかと思うが、その中でもみんな子ども達のために何か取り組んで行けるようにする必要があると考えている。

【小笠原委員】

・アンケートの住民へのフィードバックはどのように行われるのか。

【柳川 AD】

・いつも出している通信を発行しようと考えている。また、12月ごろに説明会という形など何らかの形で内容を報告したいと考えている。

【小笠原委員】

・回答率が18%という低い数字のまま返すのはどうなのかというのが1つ疑問点である。

・問4の分析について、子どもたちが忙しいということは、気の合う仲間と放課後の集まりたいという意味で公園と回答しているのではないか。学校にいる友達と一緒にいたいというわけではないのではないかと。

・問4の⑥「子どもたちが村民と触れ合える場所」で全体集計では50名ほどいるが、高校生以下の集計では0名になっているのをどのように分析するかはポイントではないか。高校生以下は、もう村民と触れ合える場所があると考えているから、他の選択肢を選んだとも考えられる。逆に全体では不十分であるから必要であると考えているのか。見方によっては現状を維持してほしいという方もいらっしゃるのかもしれない。ここの分析をしっかりとしてほしい。

- ・問6【傾向・分析】2つめのポツであるが、若者は「場所」を求めているのだろうか。他の選択肢を見ると、住環境は低くなっているので、環境整備ではなく、一歩手前にある結婚に向けたプロセスとか意識・意欲の醸成、機会が必要になるのではないか。

【柳川アドバイザー】

- ・18%をどう考えるかは難しいと感じている一方で、大都市では18%は起こり得ないのと、この18%はこの事業に関心を持っている方々の18%ということ踏まえて意見を尊重していきたい。地域ワークショップなどの意見も重ね合わせて総合的に話し合っていきたいと考えている。

【柳川アドバイザー】

- ・機能について、個人的な意見をいただけないか。

【小笠原委員】

- ・規模や財源などの制約を置いておいて、2-1に記載している機能はすべてほしい。ただ、15年一貫教育をする際に、軸みたいなのはほしいと考えている。例えば、ゆずを育てるというだけではなく、収穫する加工する販売するなど1次産業2次産業3次産業、6次産業までの仕組みをある程度学べる経験できるそういう教育現場を作っていくんだとすれば、拾っていくものがまた出てくると考えている。そういう意味でも教育ビジョンの軸はほしいと考えている。
- ・ゆずをきっかけに様々な職業があるのだと知ってもらって複合施設になれば良いのではないかと思っている。PFIの話もあったが、収入が得られるようにするなどそこをどのように組み合わせていくのかになる。

【永野委員】

- ・モネの庭という財産をどのように捉えるのか。雑談レベルではあるが、名称を北川学園ではなく、モネの庭学園がいいのではと話したこともあった。コンセプトの中に、芸術とか文化がテーマとして入っても良いのではと思っている。
- ・学びの保証というのが当初のスタートだったと考えている。学びがしっかりできる施設が基本中の基本だと考えている。その中で、コミュニティスクールを標榜していく中で、病院や診療所やカフェもあってもいいが、まずは子どもたちが安心していられる場所であってほしいし、学びが確立される空間を作ってほしい。

【柳川AD】

- ・モネの庭を子どものワークショップで入れていったが、植物までは関心が出るが芸術までは関心を寄せてはいないという感覚もみてとれた。今後検討していきたい。
- ・公園という中では、モネの庭は庭園だけでも公園ではないという意見がある。庭園を公園にしていくのか、地域の方にとって望ましい姿にしていく必要がある。

(4) (3) 社会とつながる学びの空間や複合化に向けて・サウンディングの実施について【資料3—1】サウンディング実施要領案・【資料3—2】サウンディング概要)

【GPMO 湯川】

- ・【資料3—1】【資料3—2】を基に説明

【小笠原委員】

- ・資料2—1の7ページ【多様な集団・多様な人・多様な場所】の解決策に幼少中の一体化となっている。認定こども園の話も出ている。サウンディング実施要項では保小中となっているが、どうなるのか。

【柳川 AD】

- ・現在は、保小中で記載していますが、本日の内容を踏まえて修正していく。

【小笠原委員】

- ・事務局側としてどのようなスタンスで進めるのかが大事だと考えている。

【事務局】

- ・今後としては、幼稚園機能を付加して15年一貫教育を進めていきたいというのが目指す姿だと考えている。

【小笠原委員】

- ・山崎委員の方から仕事が忙しくてこどもを預かってほしいという保護者の方もいるというご意見を考えると、幼に絞るとそういった方々を受け入れられなくなる。

【事務局】

- ・そのため認定こども園制度を検討している。保を置き去りにしているわけではなく、制度の中で、幼も含めて15年通して一貫で学んでいくというメッセージを出したいと考えている。

【小笠原委員】

- ・実施要領では、それを読めるようにした方が良い。

【伊庭委員】

- ・サウンディングをなぜやるのかについては、これから北川村さんが文教中核地域みたいなものを作っていきたいと考えている中で、それを整備するのにおそらく北川村に十分な資源・資金がないが、民間企業が本当に参画して頂けるかどうかを確認するということになる。北川村としては、民間企業が少なくとも何グループか出てくれるということを確認したいというのがサウンディングの目的だと理解している。要するにその文教中核地域というものをどのように考えて、そこでどのようなソフトを展開して、どのようなインフラ整備を考えていただけるのかと言うことを聞いた方がいいと考えている。民間企業がいろんなことを言い散らかして帰るようなサウンディングはやっても結局意味がないと思っている。「あなたが言うんだったらそれやりなさいよ」というところまで確認しないとサウンディングの目的が十分に果たせないということだと思う。
- ・PFI法の中に民間提案制度というのがあり、民間事業者が対象になっている。北川村が考えている公共施設の整備計画があって、それを実際に俺達はやりたいんだという人たちに来てもらいたい、あるいはその人たちから意見が聞きたいというようなニュアンスを少し発注文書の中には盛り込んで行った方がいいのではと思う。

【GPMO 湯川】

- ・やる気のある企業に来てもらうための仕掛けをどうするかについて、前回の発言でもありました公募と一体化していくのもそういったご趣旨の話だったと理解している。最近、国交省の方でサウンディングのやり方という資料も出しているが、大き

議事経過

	<p>く2つに分かれると言っている。1つは、公募資料の中身について聞いておきたいといったものと、もう1つは少し幅広く基本計画の部分についてどんなアイデアやノウハウがあるのかを聞いていくというものである。今回は後者の方にあたると思っており、まずはその上流の部分をおさえていくということをポイントにしつつ、2つ目のご意見については、これまで検討委員会や地域ワークショップでご意見を伺っているので、そういった意見をしっかりとアナウンスし、意思表示しながらこういうプロジェクトだから関わって欲しくないかという内容にするべきだと私も思う。そこを踏まえて少し文言を整理してみたい。</p>
--	--

<p>議事経過</p>	<p><b>(4) 就学前教育のあり方について・北川村の教育の方向性・認定こども園の概要</b>  <u>(資料4—1北川村の教育の方向性・資料4—2認定こども園の概要)</u></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料4—1】を基に説明</li> </ul> <p>【中山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料4—2】を基に説明</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、関係者の方向性を合わせ、制度や実際の運用についても学んでいく。</li> </ul> <p>【伊庭委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民営化についても検討しないといけないと考えている。民間型にすると自治体の負担が大分軽くなる国の制度になっていると思うが、事業者が出てきたときに一体型の施設整備を行うとともに運営そのものについてもそういう提案が出てきた時、受け入れるのかどうかを検討しておく必要があると考えている。</li> </ul>
-------------	--

<p>議事経過</p>	<p><b>(7) 次回の検討委員会について</b></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は11月17日(水)19時~になる。</li> </ul>
-------------	---